



# 大 地

令和6年11月号

校長 指崎 邦久

RunRun 記録会を行っているグラウンドから「がんばれ」という友達を励ます声が聞こえます。顔を赤くして汗をかきながら走る子供、スピードに乗って軽やかに走る子供、それぞれの目標に向かって挑戦していました。中には、不安な気持ちに折り合いをつけて取り組んだ子供もいたかもしれません。自分の気持ちに折り合いをつける力は社会に生きていくために必要な力ではないでしょうか。また、記録会を目指して、練習に力を入れ、より走力を伸ばし、たくましくなった子供が見られると各学年から聞きます。機会を通していろいろな力を付ける子供の吸収力に感心しました。子供のやる気と、家庭の支え、教師の指導がかみ合った成果だと感じています。改めて感謝いたします。

## 楽しかった、校外学習 10月24日、25日 1~4年生

大島絵本館と高岡古城公園へ出かけました。絵本館では、自分の絵本の表紙を作りました。古城公園では、ご飯を食べたり、遊具で遊んだり、動物を見て回ったりしました。ビンゴカードを持って動物を見て回りました。仲よく、元気よく楽しい校外学習になったようでした。

太閤山ランドへ出かけました。こども未来館で色セロハンを使ってモザイク模様を作りました。透明なセロハンに絵を描いて重ねるとカラフルな絵になりました。遊具でたっぷり遊んだ後、芝生の上でみんな一緒にご飯を食べました。

高岡消防署とショウワワノート、おとぎの森へ出かけました。消防車やノートを作る工程等を見学してたくさんの発見をしました。お昼は、おとぎの森でご飯を食べて、遊具で遊びました。天候に恵まれて、元気いっぱい遊ぶことができました。とても明るい表情で学校に帰ってきました。

四季防災館とイタイイタイ病資料館へ出かけました。四季防災館では、強い風や地震の揺れ、火災現場の疑似体験をしました。揺れに耐え、風に立ち向かったことを楽しかったという声や、地震や火事はこわい、備えが大切だと思ったという声も聞かれました。また、イタイイタイ病資料館を見学して、イタイイタイ病の怖さや健康の大切さを感じました。



# ふるさとの食に触れました

5年生は、10月23日に氷見の食材を使った料理教室を行いました。煮干しからとつただしを味わい、氷見産の野菜を使ってみそ汁と炊き込みご飯を作りました。友達と一緒に作った料理はおいしかったようでした。30・31日には、栽培漁業センターへ育てる漁業について見学に行きました。ヒラメの稚魚に餌をやったり、砂に隠れるヒラメを見付けたりしました。

氷見産の食材の魅力や、関わる人の努力に気付くことができたようです。



## 体験活動の効果

文部科学省が体験活動に関する分析結果を公開しています。それによると、小学校時代の体験の多さが、高校時代の自尊感情（自分を大切にしようという気持ち）等の育ちに関連するそうです。その分析結果を図にまとめました。

体験活動が成長に与えるよい影響（図）



この報告には、「子どもの健やかな成長を確かなものにするためには、何か一つの体験をするのではなく、多様な体験をする」ことが必要と述べてあります。学校ではこれからも、心が動く体験ができるように取り組んでいきます。ご家庭でも、手伝い等いろいろな体験を積ませてください。



このQRコードで報告を閲覧することができます

## お知らせ

学校発文書電子化の推進にご協力いただきありがとうございます。現在、複数の文書を発送させていただいているところですが、この度、氷見市の中学校が、ミマモルメによるメール配信を取りやめ「totoru（トル）」という、配信サービスに変更することになりました。詳細は、今月中に案内いたします。お手数をおかけして申し訳ありませんが、「totoru」への切り替えにご理解とご協力をいただきますようお願いします。

※ 印刷物を希望していらっしゃる方には引き続き、印刷物を配付します。